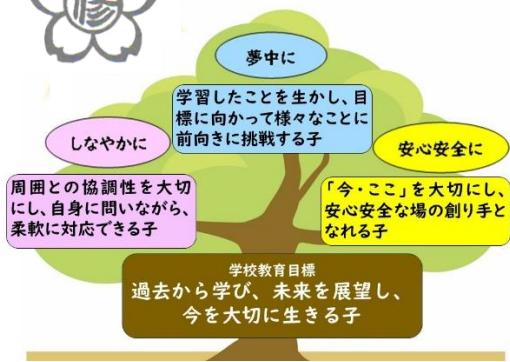




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和7年 12月1日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.39

ルールってなんだろう？

この時期は様々な紅葉に心が癒され、修学院へ向かう足取りが軽くなります。景色も本当に素敵な学区だなあと改めて思います。心の余白はそういったところから生まれて、新たなことを吸収する原動力に変わります。PTA企画の修学院の景色の取組も少しずつ広がっているようです。一人一人違った目線での修学院学区の自然や風景の共有を是非ともお願ひします。詳しくはNO.38をご参照ください。

さて、今号は「ルールって何のためにあるのだろう？」ということについてです。（ここでのルールはかなり広い範囲で捉えています。きまりやマナーも含まれます。）ルールと言われて思いつくことは、世間で言うと交通ルールはお互いの安全を守るためにありますし、おしゃべりをせず静かに鑑賞するルール（マナーですね）は、雑音をなくして音楽や劇を味わうために必要です。それに加えて京都は景観を重視するということで建物の高さ制限や看板の色などについても細かくルールがあります。学校で言うと、廊下を走らないというルールは、けがを防ぐためにありますし、遊びの順番を守るというルールは、想定されるトラブルを防ぐためにあります。最近では「マイルール」という言葉やスポーツでは「ルーティーン」というのもありますね。そのように見ていくとルールは誰かを縛るためのものではなく、

- ① みんなが安心して過ごすための「問題解決の知恵」
- ② 自分を成長するための指針

と2つのことが言えそうです。

子どもたちに、ただ「ルールを守りなさい」と伝えるのではなく、「なぜそのルールがあるのか」「そのルールによってどんな問題を解決しようとしているのか」「ルールによってどんな成長が考えられるのか」など一緒に考える機会を家庭でも学校でも大切にしたいですね。そうすることで、ルールは押しつけではなく、自分たちの生活をよりよくするもの、自分が成長するものだと感じられるようになります。また、学校のきまりも時には見直すことが必要です。ルールによって新たな問題が起こる可能性もあるからです。子どもたちと話し合いながら、「このきまりはどんな問題を解決しているのだろう」「もっとよい方法はないだろうか」「新たなルールによって起こる問題は？」と考えることは、主体性や納得感を育てる大切な学びになります。「そのルールが無くなることで起こる問題は？」など違う角度から考えてみることもいいかもしれませんね。ルールを共に考える文化が広がることで、子どもたちは自分の生活をよりよくする力を身につけていきます。ちなみに地域のルールを見ることでその地域の問題がわかるようです。「ごみのポイ捨て禁止」「ここは駐輪禁止」「立ち入り禁止」などなど見渡すと色々と言葉が入ってきますね。修学院学区はどうでしょうか？



そのルールはどんな問題を解決するためにあるのでしょうか？